

三島村への離島巡回診療実習を経験して

5年 山本 祐士

2014年2月18～2月21日まで、私は三島村の黒島での離島歯科診療実習に参加しました。三島村は黒島・竹島・硫黄島の3つの島からなり、黒島は人口200人ほどの島です。島には医師や歯科医師が常駐しておらず、診察や治療を十分に受けることができません。大学病院で行われている環境とは違う歯科医療を勉強するとともに、離島歯科診療が島民の皆さんにとってどのような役割を果たしているのかを実際に体験し、考える良い機会となりました。

巡回歯科診療では、移動歯科診療用につくられたマイクロバスの「こじか号」には歯科ユニットや器具が完備されていました。また、ポータブルのタービン・エンジン、ライトなどを診療所に別に設置することにより、普段、大学病院で行われている診療とほぼ同じ状況で治療を行うことができました。それにより、定期検診や齲蝕治療、レジン修復、簡単な義歯修理などは問題なく行うことができるようになっていました。2, 3日程度で終了する治療なら、わざわざ鹿児島市内の歯科医院へ通わなくてもよいので、島の方々にとっては非常に助かるのではないかと感じました。

一方、歯周病治療、補綴治療、矯正治療、抜歯などの小手術など、外来で通常行われる内容でも、定期的に通院する必要がある治療に関しては、年に2回しかない離島診療では行うことができません。検査を行い、診断までできても、治療をその場で行うことは難しく専門的な治療を受けることのできる鹿児島市内の歯科医院に行かざるを得ませんでした。実際に診療に来られた患者で、今回は時間や回数がかかってしまうため治療できないので応急処置のみしかできない、という状況が数例ありました。

このように、今の離島診療体制では設備自体は問題なくても、時間的・日数的な問題があり、島民の方々が本当に望んでおられる治療を行うことができない問題もあると感じました。ただ、時間のかかる治療はできなくても歯周組織検査やX線撮影を行うことによって、ある程度の診断をつけることができます。さまざまな問題はありますが鹿児島市の歯科医院に通ってもらうという形で、通院のきっかけとなってもらうということが、現在の離島診療の役割なのではないかと思いました。

離島診療では、治療だけでなく、健康教室というブラッシング指導・シュガーコントロール・義歯の取り扱いなどの講話もありました。普段は歯科治療を受けることができなくても、多くの島民の方々に齲蝕や歯周病の予防法を知っ

でもらうことで疾患が重くなることを防ぐことができます。講話では、私たち学生も健康教室で島民の方々の前で話をさせていただきましたが、熱心に聴いて下さり、質問も多くしていただきました。口腔内の健康について非常によく考えてもらい、習った歯磨きのやり方を今日から実行するという声を多くいただきました。

今回の離島巡回歯科診療に同行して、巡回歯科診療は、単に治療をしに行くのではなく、予防をするための知識を提供する場としても役に立っているのだと実感しました。また、今回の離島実習では、普段の臨床実習では学ぶことの無いこと、考えることの無いことを多く学び、考えました。このような勉強の機会を与えてくださった先生方、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

